

*FirstGlobal* メッセージ

# siesta

2015.9月号 vol.148

発行元：〒540-0012

大阪府中央区谷町1-6-4

天満橋八千代ビル10階

(株)ファーストグローバルコンサルティング

代表取締役

戦略人事コンサルタント 品川典久

TEL 06-6910-3007 FAX 06-6910-3008

Email [shinagawa@1gc.jp](mailto:shinagawa@1gc.jp)

URL <http://www.1gc.jp>

## 今月のトピック

### チャンドラー方式

ある新聞記事で「チャンドラー方式」のことが掲載されていました。「チャンドラー方式」とは作家の村上春樹の20年以上前の著書である「村上朝日堂はいぼー！」（新潮文庫）というエッセー集の一説にあります。アメリカの小説家のレイモンド・チャンドラーが推奨していたメソッドだそうですが、まずデスクを決め、万年筆や資料などをそろえ、「毎日ある時間（2時間なら2時間）をそのデスクの前に座って過ごすというもの。その間ペンを持ってなんとか文章を書こうと努力する必要はない。何もせずにただぼおとしていけばいい。そのかわり他のことをしてはいけない。本を読んだり、雑誌をめくったり、音楽を聴いたり、絵を描いたり、猫と遊んだり、誰かと話をしてはならない。」というものです。村上春樹自身がこのやり方で小説を書いているというものでした。「たとえ何も書いていないにせよ、書くのと同じ集中的な態度を維持しろということである。こうしていれば、たとえその時は一行も書けないにせよ、必ずいつかまた文章を書けるサイクルがまわってくる、あせって余計なことをしても何も得るものはない。」この方法論は何十年も前に云われたやり方ですが、現代に当てはめると、手が空くとすぐパソコンやスマホを手にとってしまいがちです。かくいう私もやっています。ただこの「チャンドラー方式」を読んで、目からウロコ、の心境でもありました。自身もそうですが、嫌なこと、苦痛を感じたときに、この「不快」は一生続くのではないかという錯覚を起こしがちです。よって、ネガティブな発想が支配して、すぐに何か手を打とうと「動いて」しまいます。結局中途半端に終わってしまいます。未来永劫「不快」が続くことはありません。これはビジネスでも人間関係でも同じではないかと感じました。たとえば、営業的なアクションを始めるが、短期間で成果が現れないからと、すぐにまた別の手を打つ。まれに顕在化した行動がその部下のすべてのように決めつけて、この部下は「OOだ」と可能性を狭めていませんか？嫌なことは一生続きませんから「安心して下さい。」



NHKのBS1でやっていた「高校野球100年ものがたり」の鳥取県版のベストゲームに私たちの試合が選ばれ、30年前の私が結構映っていました。体形もですが、顔もだいぶ変わっていますね。8/4の午前3時34分から再放送があるのでよければ録画してご覧下さい。